

オンラインシステム NACSIS-CAT ニュースレター

学術情報センター 〔〒112 東京都文京区大塚3-29-1〕

目録情報課

図書目録情報係 TEL:03(3942)6983, 6984 FAX:03(3944)7131
 雑誌目録情報係 TEL:03(3942)6985, 6986 FAX: 同上
 相互協力係 TEL:03(3942)6987, 6988 FAX: 同上
 共同利用課 TEL:03(3942)6933, 6934 FAX:03(3942)6797
 システム管理課 TEL:043(285)4914, 4915 FAX:043(290)1380

目 次

〔新CAT/ILL特集〕

1. 新CAT/ILLサーバの公開	2
2. 新ILLシステムの概要	2
3. 新CAT/ILLシステム Q&A	4
4. 新CAT/ILLへの対応状況	5
5. Webcat Q&A	7
6. 言語コードの必須化	9
7. 学術雑誌総合目録欧文編1998年版全国説明会の開催	10
8. 雑誌目録システム運用の一時変更	11
9. ILLシステムに関する質問から	11
10. 会議開催報告	14
11. 書誌調整 (図書・雑誌)	15

[新 CAT/ILL 特集]

新 CAT/ILL サーバの公開

本誌前号 (No.59) でお知らせした通り、新 CAT システムクライアントのテスト用のサーバは既に公開され、図書館システム開発業者および図書館の方に利用いただいております。しかし、これはあくまでも開発・テスト用のサーバであり、実際の業務あるいは講習会のために利用するものではありませんでした。

そこで今回、以下のように、業務用および教育用の総合目録データベースを利用するための新 CAT サーバを公開することとなりました。このサーバは、現在 CAT を利用している図書館で、新 CAT システム対応の準備が整ったところであれば利用できます。なお、新 CAT への対応状況を把握しておきたいと思いますので、利用開始にあたっては、事前に目録情報課までご連絡くださるようお願いいたします。

- (1) 公開予定日：平成 9 年 11 月 4 日 (火)
- (2) 利用方法：目録情報課 図書目録情報係にお問い合わせください

新 ILL については、次のように、まずはじめにテスト用サーバを公開し、次いで業務用および教育用サーバの公開を行う予定です。詳細な日程については、おっってお知らせします。

- (1) テスト用サーバ公開予定：平成 9 年 11 月
- (2) 業務用・教育用サーバ公開予定：平成 10 年 4 月

(図書目録情報係)

新 ILL システムの概要

平成 8 年度に開催した新目録所在情報サービス全国説明会では、主に新システムの考え方、新システムで使用するプロトコル CATP などについて説明しました (配布資料は、本誌 No.59 付録に掲載)。しかしながら、新 ILL システムについてはまだ仕様が明確でなかったこともあり、多くの説明を行っていませんでした。

今回は、この説明会以降に確定した新 ILL システムの概要を紹介します。次号以降、新 ILL システムのより詳細な仕様等を公開してゆく予定です。

新 ILL とはなんですか？

NACSIS-ILL の新しいバージョンです。通信手順には新 CAT と同様 CATP というプロトコルを採用し、図書館と NACSIS との間では画面ではなくデータそのものを交換するようになります。

CATP の考え方については本誌 No.59 付録を参照してください。

新 ILL に変更するメリットは何ですか？

新 ILL クライアント（ユーザ側のシステム）の設計の自由度が高まりますので、今お使いのシステムで不便な部分を解決したり、新しい機能を追加したりすることができます。例えば、以下のようなことです。

- 1) 学内 ILL システムと NACSIS-ILL をシームレスに操作する
- 2) 申し込まれた資料を学内システムで再検索する
- 3) 受付、発送、確認などを一括処理する
- 4) メールや WWW 画面で学内からのリクエストを受け付ける
- 5) 電子的なドキュメントデリバリーでの操作やデータを ILL レコードと連動させる

どうしてそのようなことが可能になるのですか？

図書館と NACSIS との間はデータそのものを交換するようになりますので、現行の仮想画面転送方式では難しかった画面フリーの動きが可能になります。

レコードの検索には新 CAT と同様 SEARCH メソッドや RETRIEVE メソッドを使いますが、ILL に特有のレコードの状態を変えるという操作を実現するため、別に SERVERPROCEDURECALL (SPC) というメソッドを用意しました。従来 Order「依頼」、Send「発送」のようなコマンドに相当する操作は、この SPC の Request-Header 内に指定することで実現されます。

新 ILL になると ILL 業務で何か変わるのですか？

業務自体の流れは変わりません。新 ILL 対応のクライアントを使っても操作するデータベースは現行 ILL と同じですので、現行 ILL を使った依頼は新 ILL でも受付られますし、逆も可能です。

レンディングポリシーや協力協定や料金決済方法にかかわることは、引き続きシステムとは切り離されています。新 ILL 移行のためにポリシーを特に見直す必要もありません。

新 ILL になってできなくなることはありますか？

いままでセンター側で行ってきた機能のうちいくつかは、クライアントで実現すべき機能となります。具体的には、日付（依頼日や受付日等）のシステム付与、料金自動計算、督促メッセージの表示等です。これらについては新 ILL システムクライアント作成のガイドライン（近日 WWW 上に公開、次号掲載予定）や実装仕様で規定します。

どうやったら使えるのでしょうか？

利用には新 ILL 対応のクライアントを導入する必要がありますので、各メーカーにお問い合わせください。新 ILL へ一斉に切り替えるのではなく、段階的に移行する選択肢もあります。

（相互協力係）

新 CAT/ILL システム Q&A (1)

新 CAT/ILL システムについては、できるだけ多くの機会を通じて紹介するようにしていますが、まだまだ疑問点が多いことかと思えます。新 CAT/ILL システムに関するさまざまな質問にお答えするために、本号から「Q&A」を連載することとしました。今回は、メーリングリスト等でお寄せいただいた質問の中から、ご紹介します。

Q1: 新システムを利用するとサービス時間は延長されるのですか？

A1: サービス開始直後は、現行 CAT/ILL システムと同じサービス時間となる予定です。しかし、新システムではサービス時間延長の実現性が高いので、運用環境が整い次第、順次サービス時間の延長を行う計画です。

Q2: 新 CAT システムになって、何が新たにできるようになるのですか？

A2: クライアントの設計により、以下のような機能が実現可能です。

- (1) 検索対象とする参照ファイルを自由に選択でき、検索順も自由に設定できる
- (2) 従来のようなコマンドを使わないで操作を行う
- (3) 画面のレイアウトを自由に設定できる
 - 例 1: VOL フィールドを切り離して表示する
 - 例 2: 簡略表示と詳細表示を一つの画面で行う
 - 例 3: 書誌と所蔵、あるいは親書誌と子書誌を同時に表示する
- (4) 検索のキーとしてフルタイトルキー（本タイトルの先頭から、全体を 1 語としたもの）が使用できる
- (5) 各大学のシステムと一体化したシステム設計が可能
 - 例 1: 図書館側のデータをもとにした所蔵の一括更新
 - 例 2: OPAC の検索との連動

Q3: 現在、どこかで新 CAT システムのクライアントをみることはできますか？

A3: 開発状況は、メーカーにより異なります。既にクライアントを作成しているメーカーもあるので、各メーカーにお問い合わせください。

また、学術情報センターでも、主に講習会やデモンストレーションで使うクライアントを作成しています。公開可能となり次第、皆様にお知らせします。

Q4: 一つの図書館で、現行システムと新システムの両方を利用することはできますか？

A4: システムの移行期間等で、そのような運用が考えられます。当然、可能です。

Q5: 新 CAT では、多言語対応となって中国語を入力できるのですか？

A5: 新 CAT では、多言語への対応は UCS コードが扱えるハードウェア、ソフトウェアが整備されていることが前提とされます。現在はこの環境が不十分なことから、新サービスの開始直後はこれまでと同様に中国語の入力はできません。

(図書目録情報係)

新 CAT/ILL への対応状況： 目録所在情報サービス利用に関するアンケート調査結果の最終報告

平成 9 年 4 月に実施した上記アンケート調査結果については、本誌前号 (No.59) で概要を報告しました。今回は、その後いただいた回答を含め、さらに一部再確認調査を実施した結果を最終報告としてまとめ、新 CAT/ILL への対応状況として紹介します。

調査にご協力いただいた方々には、あらためてこの場を借りてお礼申し上げます。

1. 依頼数・回答数

アンケート対象は、目録所在情報サービス既接続 510 機関と接続予定 80 機関でした。回答率は 88%になっています。

機関種別	発送数	回答数	回答率
国立大学	98	92	94%
公立大学	41	35	85%
私立大学	276	251	91%
共同利用機関	12	9	75%
短大・高専	87	77	89%
その他	76	53	70%
合計	590	517	88%

2. 利用端末台数の年次計画

現行サービス・新サービスに対応する端末台数の年次計画、新サービスに対応する機関数を回答全体で集計しました。前回の報告と異なり、具体的な計画がないと回答の機関については、「対応未定」として集計しました。

	H.9	H.10	H.11	H.12	H.13	H.14
現行サービス対応	4,495	2,409	1,631	1,171	384	305
新サービス対応	259	931	1,247	1,444	2,018	2,148
対応未定	0	1,775	2,276	2,577	2,811	2,840
合計台数	4,754	5,115	5,154	5,192	5,213	5,293
新サービス機関数	33	79	101	118	134	136

また、平成 14 年度時点での新サービス対応端末台数の比率を、機関種別に示します。

機関種別	合計台数	新サービス	比率
国立大学	1,870	1,062	57%
公立大学	283	37	13%
私立大学	2,652	903	34%
共同利用機関	65	25	38%
短大・高専	170	41	24%
その他	253	80	32%
合計	5,293	2,148	41%

対応未定の機関のうち 12 機関をサンプリングし、再度調査を行ったところ、「現時点でメーカーの対応が明確でないから」、「新サービスの具体像が分からないから」という理由が大半でした。

しかし、再調査を行った機関のすべてが、「方向としては新サービスに対応したい」との意向であったことから、今後より一層メーカーの対応状況の把握に努め、新サービスの広報を進めてゆきたいと考えています。

3.接続形態・プロトコル

現行および通信回線変更後（概ね 3 年以内）の接続形態とプロトコルを示します（複数回答あり）。

接続形態

現行	機関数	変更後	機関数
Internet	311	Internet	386
・SINET	(210)	・SINET	(277)
・地域ネット等	(101)	・地域ネット等	(109)
学情パケット	131	学情パケット	78
DDX-P	48	DDX-P	31
INS-P	42	INS-P	39
DDX-TP	2	DDX-TP	1

プロトコル

現行	機関数	割合	変更後	機関数	割合
VTSS	482	93%	CATP	73	14%
N-1	39	7%	VTSS	319	61%
			N-1	1	0%
			未定	132	25%
合計	521	100%		525	100%

メーカーによっては、西暦 2000 年をめどに、N-1 あるいは VTSS 対応図書館システムのサポートを止めるところもあるようです。できるだけ早急に、各図書館で NACSIS-CAT/ILL に関するメーカーの対応状況を確認していただくようお願いいたします。

（図書目録情報係）

Webcat Q&A

総合目録データベース WWW 検索サービス(Webcat)は、総合目録データベースのサーバ移行の段階で実現可能となったものであり、その意味では新 CAT システム開発の副産物であるといえます。この Webcat は、平成 9 年 4 月からの試行サービス公開以来、多くの研究者や図書館関係者に好評をもって迎えられており、現在、毎月その利用が増加している状況です。

今回は、この Webcat に関して寄せられた質問の中から、皆様の関心の高いと思われるものを、回答とともにご紹介します。

Q1: データ内容は、いつ時点のものか？ NACSIS-CAT のデータとの違いは？

A1: 基本的には、NACSIS-CAT の総合目録データベースと同等の最新データを検索できます。ただし、Webcat では 24 時間サービスを可能とするために、次のような 2 種類の DB を運用しており、若干データの基準日が異なります。

月	火	水	木	金	土	日
(1) 前週木曜時点					(2) 金曜日時点	

(1) CAT 業務時間帯(月～金) バックアップ DB(前週木曜日業務終了時 のもの)

(2) CAT 業務時間外(土～日) 業務用 DB(直前の金曜日業務終了時 のもの)

Q2: 試行サービス以降、どうなるのか？

A2: 試行サービスで利用傾向の調査や体系的な評価を行った後に、本サービスに移行する予定です。現在のところ、データベース内容や検索機能はそのままで移行することを計画しています。

Q3: NACSIS-IR との違いは？

A3: NACSIS-IR では、複数検索集合間の演算や言語コードを指定した検索あるいは複数データベースの統合検索など、Webcat にはない高度な検索が可能となっています。また、大量の検索結果を一覧することも、NACSIS-IR では可能です。

Q4: 自分のホームページから Webcat にリンクをはってもよいのか？

A4: リンクは自由に行っていただいて構いません。ただし、リンク先が学術情報センター(NACSIS)であることを明記するようにしてください。

Q5: 200 件以上の書誌簡略表示ができないのか？

A5: 実務上、数百、数千の大量書誌データを一覧する必要性は低いこと、大量データの転送と表示は Webcat システムへの負荷につながることから、表示件数を 200 件に抑えています。

す。200 件以上の表示が必要な場合は、NACSIS-IR をお使いください。

Q6: 自館の所蔵データが表示されないのはなぜ？

A6: システムへの負荷軽減を考慮して、現在、所蔵データの表示件数を 200 件に抑えています。よって、所蔵データが 200 件以上ある図書や雑誌については、自館のデータが表示されないというケースもできます。

しかしながら、所蔵データ全件を見たいという要望も多く、データ量の上限を想定したシステム改善が可能であることから、全件表示を可能とする改善を平成 9 年度内に行う予定です。改善の日程が決まり次第、またお伝えします。

Q7: 書誌データの表示順は？

A7: 検索された図書・雑誌のタイトル順に表示しています。200 件以上の場合は、データベースから順不同に抽出された 200 件の中で、タイトル順に並べて表示しています。

Q8: 所蔵データの表示順は？

Q8: その資料の所蔵館の「略称」の文字コード順に表示しています。つまり、アルファベット
かな 漢字(漢字は JIS コード順)の順になります。

(例) ↓
「ICU」
「アジ研」
「一橋」
「東大総」

(図書目録情報係)

新 CAT/ILL システムや Webcat に関する質問は、以下のメールアドレスで受け付けています。ご質問に対しては個別にお答えしますが、内容によっては本誌 Q&A に掲載させていただく場合もあります。

catadm@op.nacsis.ac.jp

言語コードの必須化

平成 10 年 1 月から、総合目録データベースの図書・雑誌書誌レコード中の言語コードフィールド (TTLL, TXTL) を、入力レベル「必須 1」とすることといたします。

システム改訂後は、これらのフィールドにデータがないと、レコードの更新ができませんのでご注意ください。

1. 経緯

- (1) 総合目録データベースを和洋統合したことに伴い、各図書館側のデータベースで和洋の区別が必要な場合に、言語コード (TTLL, TXTL) を使う例が報告されています。
- (2) これらのフィールドの入力レベルは現行では「必須 2」で、入力すべきデータがある場合には必ず入力すべきフィールドです。しかし、「必須 1」である TR 等と異なりデータの記述がなくても登録ができるため、実際には入力されていないレコードが散見されます。
- (3) 和洋を区別するためにこのコードを使用する図書館から、「必須 1」にレベルを変更して欲しいとの要望がセンターに寄せられるようになり、総合目録小委員会で検討した結果、以下の様に変更することとなりました。

2. 変更内容

TTLL 「必須 1」(データ記入は必ず行う)

TXTL 「必須 1」(データ記入は必ず行う)

3. 特殊なケースへの対応

コード表で未定義であった等の理由により、これまでコードが入力されていなかった以下のケースについては、言語コード「und」を使用することとします。

- (1) コード表で未定義の言語の場合
- (2) 言語名が判断できない場合
- (3) 親書誌レコードの場合
(ただし、図書書誌レコードで、バランスしない書誌の場合にはその言語コードを入力する)
- (4) テキストがまったくない資料の場合
- (5) 「削除予定レコード」にする場合

コーディングマニュアルの該当部分は、本誌次号に掲載する予定です。

4. 実施時期

平成 10 年 1 月

(図書目録情報係)

学術雑誌総合目録欧文編 1998 年版全国調査説明会の開催

本誌前号 (No.59) , および予備調査等でご案内しましたが, 平成 9 年 11 月 1 日 ~ 平成 10 年 3 月 31 日までを調査期間として, 学術雑誌総合目録欧文編 1998 年版の全国調査を行います。(基準日は平成 9 年 11 月 1 日)

全国調査の開始にあたり, 説明会を以下のとおり, 全国 7 か所で合計 8 回開催します。

地区名	日時	開催場所
北海道地区会場	平成 9 年 11 月 6 日(木) 13:30 ~ 16:00	北海道大学附属図書館 4 階会議室 (札幌市北区北 8 条西 5 丁目)
東北地区会場	平成 9 年 10 月 30 日(木) 13:30 ~ 16:00	東北大学附属図書館 2 号館 4 階会議室 (仙台市青葉区川内)
関東・甲信越地区会場	平成 9 年 10 月 31 日(金) 9:30 ~ 12:00 午前の部 13:30 ~ 16:00 午後の部	東京医科歯科大学 5 号館 4 階講堂 (文京区湯島 1-5-45)
中部地区会場	平成 9 年 11 月 7 日(金) 13:30 ~ 16:00	名古屋大学経済学部第 1 講義室 (名古屋市千種区不老町)
関西地区会場	平成 9 年 10 月 28 日(火) 13:30 ~ 16:00	大阪大学医学部銀杏会館 3 階阪急・三和 ホール(吹田市山田丘 2 番 2 号)
中国・四国地区会場	平成 9 年 10 月 28 日(火) 13:30 ~ 16:00	岡山大学自然科学研究科 2 階大会議室 (岡山市津島中 3-1-1)
九州・沖縄地区会場	平成 9 年 11 月 5 日(水) 13:30 ~ 16:00	九州大学附属図書館 4 階視聴覚ホール (福岡市東区箱崎 6-10-1)

この説明会では, 「学術雑誌総合目録欧文編全国調査マニュアル 1997」に基づき, (1) 全国調査の概要, (2) 書誌・所蔵データの記入要項, (3) CD-ROM 全国調査システムの利用方法等に関して説明する予定です。データの記入要項等は, 従来の全国調査と同様ですので, 既に全国調査を経験されている場合は, この説明会に参加なさらずとも調査は可能です。なお, 目録情報課のホームページでも, 今回の説明会と同じ説明内容を提供する予定です。

全国調査への参加を表明していただいている参加組織に対しては, 別途この説明会に関する案内をお送りします。所定の用紙によって, 説明会への参加を申込んでください。

お問い合わせは, 目録情報課 雑誌目録情報係までお願いします。

(雑誌目録情報係)

雑誌目録システム運用の一時変更

学術雑誌総合目録欧文編全国調査の実施に伴い、次のように雑誌システムの運用を変更します。

[書誌レコード削除処理の変更]

レコードの作成日が1997年8月14日以前の洋雑誌の重複レコードを見つけた場合は、「削除予定レコード」の処理をせずに、目録情報課 雑誌目録情報係あてに「目録情報に関する質問書」と画面のハードコピーを添えて報告してください。運用変更期間は、現在から平成10年9月頃までとします。

[理由]

8月14日時点の雑誌データベースをもとに、欧文編全国調査のための「CD-ROM 全国調査システム」と「予備版」を作成しています。オンラインで削除予定レコードにされてしまうと、CD-ROM 利用館およびデータシート館からの報告内容を反映する際に問題となるため、上記の運用変更を行います。

また、オンラインによる新規作成書誌レコードの報告は、従来通り、作成後すみやかに行ってください。締め切り前にまとめてご報告いただくと、処理が集中し作業の遅れの原因となりますのでご協力お願いいたします。

なお、お送りいただくのは、当該書誌の画面ハードコピーと必要十分な情報源箇所（タイトルページ、表紙、裏表紙、エディトリアルページは必ず）のコピーのセットです。

（雑誌目録情報係）

ILL システムに関する質問から

BIB フィールドのNDLへの転送データについて

NDLへ依頼した時に、「記載事項不備」とのコメントで新着照会となった。該当事項はBIBフィールドに記載されているが、なぜ転送されないのか。

ILLレコードのBIBフィールドは、実際は3つのフィールド(<BIBID>、<BIBNT>、<STDNO>)から構成されています。以下に示すBIBフィールドを例にとると、

BIB:<BN00762300>借地法 / 鈴木禄弥著 ; 上巻, 下巻. -- 改訂版. -- 青林書院新社, 1980. -- (現代法律学全集 ;14).(ISBN=4417004684, NBN=JP80031351)

<BIBID> : BIB フィールドの最前部の<>で囲まれるもの。

BN00762300

<BIBNT> : <BIBID>と<STDNO>以外の部分。

借地法 / 鈴木禄弥著 ; 上巻, 下巻. -- 改訂版. -- 青林書院新社,
1980. -- (現代法律学全集 ;14).

<STDNO> : BIB フィールドの最後部分が) の時に , 直近の (とで囲まれ
るもの。

ISBN=4417004684,NBN =JP80031351

このうち , NDL へ転送されるのは<BIBNT>のみで , <BIBID> , <STDNO>は
転送されません。

NDL への依頼では , BIB フィールドを自動設定ではなくて直接入力される場
合もあると思います。この時 , 例を使って

BIB:借地法 / 鈴木禄弥著 ; 上巻, 下巻. -- 改訂版. -- 青林書院新社, 1980. --
(現代法律学全集 ;14)

とした場合 , 最後の (現代法律学全集 ;14) は<STDNO>フィールドに収められ
ていますので , 転送内容から除外されます。

ご質問のような状況になった場合は , 以上の原因が考えられますので , その時
は , 最後部に「 . 」 (ピリオド) を追加するなどして対処してください。

なお , NDL 依頼機能の注意点については , ILL 操作マニュアルのほか , 本誌
No.55 (1996.6) p.6 にも掲載していますのでご参照ください。

BLDSC の STATUS REPORT に対する返答について

ILL 操作マニュアル第 3 版 p.170 では , コメント (CMMNT) フィールドの最
大長が 16 バイトとなっている。BLDSC から STATUS REPORT が届き , 所定
のリプライコードを入力したいが , 16 バイトを超えても良いのか。

コメント (CMMNT) フィールドに入力してください。

最大長については , データ削除の可能性があるのでご注意ください (マ
ニュアル p.170) , ご質問にあるような BLDSC へのコードなど必須の情報につ
いては , 当センターで確認・補正処理を行った上で転送していますので , 16 バイ
トを超えても構いません。

SCAN コマンドの利用について

受付検索画面で SCAN コマンドを使って、未処理レコードの中から [LOC=中央] で限定検索したが、「中央」以外の LOC (例えば、[LOC=分館]) のレコードもヒットした。なぜか。

依頼館は依頼時に、最大 5 つまで受付候補館を指定することができます。受付館が確定した後も、他候補館のデータ (HMLID, HMLNM, LOC, CLN, RGTN) はレコードに保存されています (自館以外の候補館は画面上に表示されません)。

従って、自館においては [LOC=中央] でないレコードでも、そのレコード中の他の受付候補館で、[LOC=中央] のものがあれば、画面上に表示されていなくてもシステムがそれを認識してヒットします。

残念ながら、現行システムではこれ以上の限定検索を行うことはできません。

複写データ処理センター業務についてのお知らせ

国立大学等図書館間の文献複写経費の集計を行う複写データ処理センターが、大阪大学から学術情報センターに移管されて初めてのデータ処理を、現在行っております。この処理結果は、次号でお知らせする予定です。

なお、複写データ処理センターに関するお問い合わせは、目録情報課 相互協力係で承ります。

(相互協力係)

会議開催報告

[平成9年度第1回 総合目録小委員会]

[日時]

平成9年7月16日(水) 14:00~17:00

[報告]

- 1.平成9年度学術情報センターの事業について
- 2.平成9年度目録所在情報サービス関係システム開発計画について

[作業状況報告・審議]

- 1.「目録情報の基準」の改訂について
- 2.雑誌書誌コーディングマニュアルの作成について
- 3.著者名典拠レコード修正指針について
- 4.中国語資料の取り扱いの検討について
- 5.言語コードの必須化について
- 6.今後の検討スケジュールについて

[平成9年度第2回 中国語資料データベース化検討ワーキンググループ]

[日時]

平成9年7月18日(金) 14:00~19:00

[内容]

今回のワーキングでは、レコードの作成基準、書誌記述の基準などについて、具体的な内容に踏み込んだ検討を行いました。書誌記述の基準については、TR フィールドを中心に検討し、それに関連してヨミの分かちの必要性について活発な意見交換が行われました。

[作業状況報告・審議]

1. 特殊文字、記号の転記の原則について
2. 書誌及び著者名典拠レコードの作成基準について
3. 書誌記述の基準について
4. 雑誌書誌レコードの作成基準について
5. ヨミの分かちについて

(図書目録情報係)